平成２９年度　部局自己評価報告書　（29：学際科学フロンティア研究所）

Ⅲ　部局別評価指標（取組分）

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：（㉓）～（㉔）合わせて 7,000 字以内

（1）全学の第3期中期目標・中期計画への貢献又は里見ビジョンへの貢献とその社会的価値（㉓）

1.　先端的学際研究の推進と学内学際研究発掘

平成 28 年度に先端的学際研究を推進する学際研究促進プログラム（所内公募）1 件、学内において異分野融合学際研究を推進するための学際研究支援プログラム 7 件（本所外の学内公募）、挑戦的な異分野融合の萌芽的学際研究を学内から発掘するための領域創成研究プログラム 20 件（本所を含む学内公募）を実施した。これらの成果として本所全体で平成 28 年に延べ 245 報（内、新領域創成研究部若手教員は　211 報）の論文、12 報の著書を発表した。

これらの研究を通じて、東北大学が所有する学術標本の新たな展示手法の提案「先史のかたちー連鎖する土器群めぐり」および関連する講演会「先史のメディア論」、「ムカシのミライ／プロセス考古学×ポストプロセス考古学」の開催（（３）東北大学復興アクションの着実な遂行（⑲）で既述）、社会動態セミナー「人類社会における不平等の生成と発達」（平成 29 年 2 月 17 日）、川内茶会セミナー「オンライン実験で迫る、ヒトの社会的学習と集合行動」（平成 28 年 10 月 28 日）および「不平等の起源をさぐる」（平成 28 年 12 月 26 日）、東北ドラッグデリバリーシステム研究会「質量分析で何が、かわるかー東北の質量分析最前線ー」（平成 28 年 8 月 10 日）等の多様な研究会を開催し、個々の知見の深化と社会への研究成果の発信に努めた。

国際的研究拠点支援プログラムでは、フランス国立中央理工科学校リヨン校（ECL）との共同研究拠点形成を継続させた。

（全学第３期中期目標・中期計画 No.21, 22, 25, 31, 33 および里見ビジョン 2-⑥-1）

2.　若手研究者の育成支援

平成 28 年度に国際公募を実施し、助教 10 名を採用した。平成 29 年 4 月 1 日現在の新領域創成研究部若手教員は准教授 2 名、助教 52 名である。上述したように、これらの若手教員には研究費、研究スペース、海外派遣等の研究支援を行っている。また助教 1 名は学内公募による領域創成研究にも採択され、別途支援している。平成 28 年度に 3 名の助教が文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞が内定した（受賞は平成 29 年度）。

平成 28 年度に新領域創成研究部助教が本学情報科学研究科准教授、大学院薬学研究科助教（いずれも承継職員）、男女共同参画推進センター特任講師に転出した他、九州大学講師、千葉大学、広島大学、三重大学のそれぞれ助教として転出した。このことから本取り組みは若手研究者のキャリアパスとして着実な成果を上げていると考えられる。（尚志プログラム）

北海道大学及び名古屋大学と共同で実施している「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業－連携型博士研究人材総合育成システムの構築」の育成対象者 4 名を採択し、3 大学連携の自立的かつ国際的に活躍しうる人材育成を開始した。

学際高等研究教育院の博士・修士教育院生と上記の若手教員の連携によるセミナー、研究会、コロキウムなどの活動（養賢プロジェクト）は、Ⅱ１（１）⑰ですでに記載した。

学内９附置研究所・センター連携体による若手アンサンブルプロジェクトの実施部局の一つとして、若手研究者支援を行った。平成 27 年度発足以来、共同研究（グラントの公募）とワークショップを実施してきた。平成 28 年度は 7 月 12-13 日にワークショップを 10 月 31 日-11 月 1 日に研究会を実施した。
（全学第３期中期目標・中期計画 No.7, 9, 28 および里見ビジョン 2-④-3）

3.　若手研究者の国際舞台進出支援
新領域創成研究部所属若手教員の平成 28 年度の国際会議発表が 153 件（内、22 件は招待講演）、共同研究のための海外渡航が 24 件であった。また、研究大学強化促進事業（若手研究者武者修行プログラム）で 1 名をアルゴンヌ国立研究所、同若手リーダー研究者海外派遣プログラムで３名をチューリッヒ応用科学大学(ZHAW)、レディング大学、メリーランド大学に派遣した。さらに若手研究人材育成コンソーシアム構築事業で延べ 16 名を海外研究機関または国際会議に派遣した。（Ⅱ１（１）に⑰に記載）
（全学第３期中期目標・中期計画 No.21, 31 および里見ビジョン 2-④-3、2-⑤-2）

4.　異分野融合・学際分野における国際的頭脳循環のネットワークとハブの形成
全学的に推進しているフランス国立中央理工科学校リヨン校（ECL）との間での共同研究・教育プログラムである ELyTMaX(UNI)、ELyT(LIA)、ElyT School に参加し、連携を促進してきた。平成 28 年 10 月 6-8 日に仙台で開催された国際ワークショップ（2016 TFC ELyT Workshop - 8th Annual Workshop）では、本所教員とその教員が指導している学生が 3 件の発表を行った。また新領域創成研究部助教の国際化推進枠の審査において、応募者の中から結果として同プログラムと関係する若手研究者 2 名（1 名は平成 29 年 2 月着任、1 名は平成 29 年 6 月着任予定）を採用した。
（全学第３期中期目標・中期計画 No.28, 31 および里見ビジョン 2-④-3、2-⑤-2）

(2)〔前記㉓〕のほか東北大学グローバルビジョン（部局ビジョン）の　重点戦略・展開施策の達成状況又は部局の第3期中期目標・中期計画の達成状況とその社会的価値（㉔）

「Ⅱ　１　里見ビジョン及び全学中期目標・中期計画において、全部局での実施が望まれる計画への取組（１）国際レベルの人材育成に関する取組及びグローバルな修学環境の整備（⑰）」及び「Ⅲ（１）全学の第３期中期目標・中期計画への貢献または里見ビジョンへの貢献とその社会的価値（㉓）」で説明済み。